株式のご案内

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月開催
剰余金の配当基準日	12月31日（中間配当を行う場合は6月30日）
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル　0120-288-324 （土・日・祝日を除く9:00～17:00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取り扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

公告方法　電子公告（https://www.soir.co.jp/）
ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

証券コード　8040（東証2部）

【単元未満株式（1～99株）の買取制度のご案内】
○お手続き方法
単元未満株式が記録されている口座によってお手続きの窓口が異なりますので、ご留意ください。
①証券会社の口座に記録されている単元未満株式
　お取引口座のある証券会社（口座管理機関）にお問い合わせください。
②特別口座に記録されている単元未満株式
　みずほ信託銀行株式会社　証券代行部（特別口座の口座管理機関　兼　株主名簿管理人）にお問い合わせください。

【支払通知書に関してご留意いただきたい事項】
「支払通知書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成するものであり、株主様が確定申告を行う際に必要となる場合があります。当社がお支払いする配当金については、株主様にお送りしております「配当金計算書」を「支払通知書」としてご利用いただくことができます。（ただし、株式数比例配分方式を選択された場合については、お取り扱いが異なりますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。）
ご不明な点については、みずほ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。

お客様相談室 *Customer Service*

お客様からいただいたお一人おひとりの声を大切に、迅速な対応を心掛けております。いただいたご意見は、さらにお客様に愛されるフォーマルウェアをお届けするために商品やサービスへと反映しております。

03-3475-1253
（土・日・祝日を除く 10時～17時）

オンラインショップ *Online Shop*

東京ソワール公式通販サイト「フォーマルメッセージ・ドットコム」

目的に合わせ、用途別に商品をご覧いただけます。
通販サイトオリジナル商品もお取り扱いしております。

対応機種をお持ちの方は、左のQRコードよりアクセスできます。

オンラインショップ FORMAL MESSAGE
パソコン・携帯電話からお気軽にご覧いただけます。
https://formal-message.com/

株式会社 東京ソワール
本社　〒107-8604　東京都港区南青山一丁目1番1号
TEL.03-3475-1251（代）

PRO-WE PROJECT- With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT- With the Earth を通じてオフセット（相殺）しています。

TOKYO SOIR 東京ソワール

Business Report 2018

Anniversary 50th

Formal Beauty

礼儀正しく、私らしく。

株式会社 東京ソワール
第50期ビジネスレポート
平成30年1月1日～平成30年12月31日
証券コード：8040

フィロソフィー *Philosophy*

経営理念

ファッションビジネスを通じて、日本女性の生活文化向上に寄与するとともに、消費者・株主・従業員の福祉と豊かな生活を実現する。

企業行動憲章

私たちは、「ファッション」に関わる事業に携わる者として、企業の社会的責任を自覚し、事業活動の展開にあたっては、次の6原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、すべての法律、国際ルールを遵守し、またその精神を尊重するとともに、社会的良識をもって、持続的発展に向けて自主的に行動します。

1. 健全な収益の確保
2. お客さまに喜びと安心を提供
3. 公正・透明な事業活動の推進
4. 積極的な企業情報の開示
5. 地球環境の保全と人間の尊重
6. よき企業市民としての行動

50周年記念ロゴについて

ロゴのデザインを手掛けたのはインドネシア・ジャカルタ在住のデザイナー兼カリグラファー『ヴェロニカ・ハリム』氏。「厳密なルールにとらわれることなく、自分らしい自由なスタイルでアレンジを楽しむことができること」をモダンカリグラフィーで表現していただきました。
ブラックフォーマル文化を創造し時代を牽引してきた東京ソワール。今までのご愛顧に感謝するとともに、これからも自分らしさを大切に生きる女性を応援していきたい。そんな50周年に対する想いも込められています。

ごあいさつ *Message From The President*

代表取締役社長
村越 眞二

おかげさまで創立50周年を迎えました。これからもよろしくお願いいたします。

当社は、平成31年(2019年)1月23日をもちまして、創立50周年を迎えました。
これもひとえに、株主様をはじめ、平素より格別のご高配とご支援をいただいております多くの皆様のお陰によるものと、心から深く御礼申し上げます。
株式会社としての設立は昭和44年(1969年)ですが、当社のルーツは、創業者の児島絹子が昭和29年に始めたオーダーメイドの高級婦人服店「ソワール洋装店」にあり、日本で初めてとなる和装喪服に代わるブラックフォーマルウェアを開発し、本格的に既製服に進出いたしました。
近年、アパレル業界やフォーマルウェア業界を取り巻く環境は様変わりしておりますが、当社は、お客様を起点とした価値の提供が必要不可欠であることから、直営店などリアル店舗の設置を進めるとともに、そのリアル店舗とEビジネスとの融合、さらにはサービスを組み合わせ提供するなど“婦人フォーマル企業”から“総合フォーマル企業”への変容を目指します。
また、既存マーケットにおいては、さらに価値ある製品を開発するとともに、情報通信端末を活用した新たなサービスに取り組み、市場の変化に対応した魅力あるフォーマルライフの提案ができる売場づくりを進めてまいります。

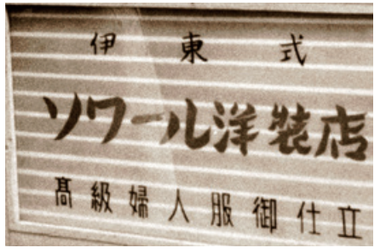
株主の皆様におかれましては、今後とも、なお一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創立50周年記念 *50th Anniversary*

東京ソワールは2019年1月23日をもちまして
創立50周年を迎えました。

1969 年　株式会社東京ソワール設立

株式会社設立より遡ること15年前の1954年（昭和29年）創業者 児島絹子が東京都世田谷区に、オートクチュールの店「ソワール洋装店」をオープンいたしました。技術力の高さが評価され、白木屋サロン・ド・パリ「オートクチュール」の専属工場となりました。これは当時、洋装店として最高の評価と信頼を得たという証でもありました。
その後、東急百貨店東横店に「黒のコーナー」を設け、女性のための黒の礼服として「ブラックフォーマルウェア」を発表。
ここから日本のフォーマル文化が始まったのです。



設立直後の東京ソワール

ソワール洋装店　井の頭線神泉駅前（円山町）店舗　　1972年に設立した自社工場（世田谷区代田）　　自社工場を設立した当時の職場

東京ソワール創業者 草野絹子元社長が秋の褒章を受章

婦人ブラックフォーマルウェア（黒の式・礼服）の開発による婦人服の新しい市場の創出・拡大、需要の喚起、女性社長として日本で初の株式上場を果たすなど、当社の発展に貢献し業界や経済団体、地域経済・社会の発展と行政協力に尽くした功績により、創業者の草野絹子元社長が平成29年度秋の褒章「藍綬褒章」を受章いたしました。

このたびの受章はひとえに、ご支援いただきました皆様のお陰だと感謝申し上げますとともに、更なるフォーマル市場の広がりと日本女性の生活文化向上の一助になればと存じます。

50周年特設ページ開設＆コーポレートサイトリニューアル

創立記念日の1月23日に合わせ、当社コーポレートサイト内に50周年特設ページを開設しました。

また、コーポレートサイトと自社オンラインショップ「フォーマルメッセージ・ドットコム」をスマートフォンからも閲覧しやすいデザインへリニューアル。
時代に即した情報発信をさらに強化し、自社の魅力のアピールに努めてまいります。

50周年特設ページ

コーポレートサイト

決算ハイライト *Highlights*

営業の概況

当期における日本経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調にあるものの、米中貿易摩擦の動向ならびに金融資本市場の変動による国内経済への影響などにより、先行き不透明な状況が続いております。

当アパレル業界におきましては、消費者の衣料品に対する購買行動の多様化や依然として根強い節約志向に加え、相次ぐ自然災害による影響もあり、厳しい市況が続いております。

このような経営環境の中、当社は、主な取引先販路における店頭競争力の強化に注力し、百貨店販路に向けては、ブラックフォーマルのオーセンティックを追求する新規ブランド「アクアスキュータム」の展開を行いました。また、量販店販路では、「マルチオケージョンフォーマル」をコンセプトとした新規ブランド「フェデソワール」を一部店舗で展開を始めるとともに、重点販売商品の展開拡大に努め、一方では値下げ販売の抑制による収益性の向上に努めてまいりました。

また、フォーマルコンセプトショップ「フォルムフォルマ」では、モール型ECサイトを含む4店舗を出店し、アウトレットモールでは期間催事として1店舗を出店いたしました。さらに、オンラインショップ「フォーマルメッセージ・ドットコム」では、プロモーションの強化やスマートフォン向けのサイト改編、EC限定商品の展開により、集客力の向上と売上の拡大を図ってまいりました。

しかしながら、当社の主力取引先である百貨店販路及び量販店販路における閉店や売場閉鎖の影響により店頭販売額が減少傾向にあることや、一部取引先からの取引条件切り換え要請による売上計上時期を、当社出荷時点から小売販売時点へ変更したことに伴う一時的な売上高の減少（3億76百万円）もあり、商品別の売上高は、ブラックフォーマルが99億72百万円（前期比3.4％減）、カラーフォーマルが32億97百万円（同3.7％減）、アクセサリー類が28億65百万円（同3.3％減）となり、当期の売上高は、前期比5億81百万円減の161億35百万円（同3.5％減）となりました。

利益面では、製品評価損の増加はありましたが、製造コストの削減や返品調整引当金の減少、値下げ販売の抑制により、売上総利益率は前期比1.9ポイント増の48.2％となったことから、売上総利益は同37百万円増の77億70百万円（前期比0.5％増）となりました。販売費及び一般管理費は、荷造運賃や支払手数料の減少もありましたが、販売促進費や直営店の出店等に伴う賃借料等の増加もあり、全体では前期比66百万円増（同0.9％増）となりました。

この結果、当期の業績は、営業利益1億44百万円（前期比17.0％減）、経常利益は2億56百万円（同14.4％減）となりました。また、特別利益として投資有価証券売却益84百万円を、特別損失として減損損失1億28百万円を計上したことから、当期純利益は1億65百万円（前期は当期純損失70百万円）となりました。

対処すべき課題

当社は平成31年12月期を初年度とする中期経営ビジョンとして、「“チャレンジ2021” Tradition & Transformation」を掲げ、「婦人フォーマル企業」から「総合フォーマル企業」への変容を目指し、挑戦し続けます。

顧客との接点は「リアル」から「デジタル」へとシフトしており、ICTインフラの整備と利用が欠かせない手段となっております。また、付加価値の提供は「モノ」から「モノ」と「コト」を組み合わせたサービスへとシフトしており、この変化に迅速に対応することが生き残るための条件となっていると考えております。

このような環境下、従来のビジネスモデルのみでの持続的な成長は困難な状況であり、今後は顧客とダイレクトにつながり、商品だけではなくサービスも合わせて提供することが成長のためのモデルとなっております。そのためには速やかな事業構造の変革・変容が必須であることから、その実現に向けて以下のとおり取り組んでまいります。

①卸売事業の収益改善

生産から販売までの業務プロセスを見直し、収益性を重視した効率的な運用へと変革を目指します。

- 不採算店舗の取引条件交渉ならびに人員配置等の見直しによる効率化
- 原価低減・維持の手法開発と実践

②小売事業の収益拡大

商品の拡充とICT（Information and Communication Technology）の活用及び顧客との接点の最大化により売上拡大を目指します。

- ECの売上拡大とリアル店舗との連携によるオムニチャネル化
- 直営店「フォルムフォルマ」の出店加速による売上拡大

③新規事業の開発

顧客ニーズの変化に対応した事業の開発に向けて、挑戦し続けます。

- レンタル事業への本格的参入による新たなマーケットでの売上獲得
- 新たなコンセプトショップの開発に向けた取り組みによる、新たなお客様の獲得

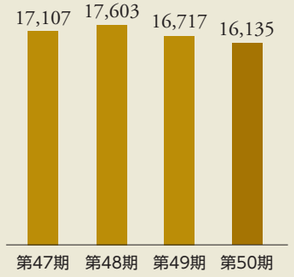
④事業基盤の強化

事業戦略を支えるインフラの強化と効率化に引き続き取り組みます。

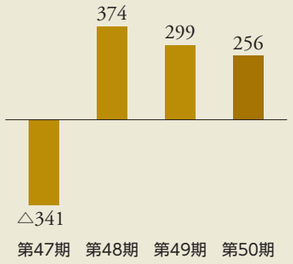
- 環境の変化に柔軟に対応できる基幹人材の育成
- ICTの活用によるデジタルシフト、サービスシフトへの対応

株主の皆様におかれましては、今後とも、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

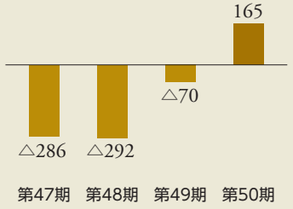
● 売上高（単位：百万円）



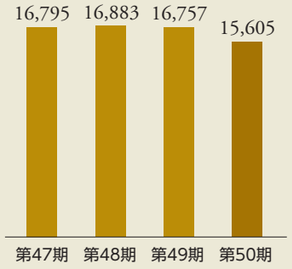
● 経常利益または損失（△）（単位：百万円）



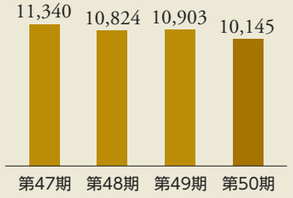
● 当期純利益または純損失（△）（単位：百万円）



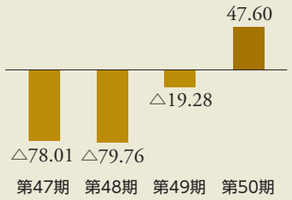
● 総資産（単位：百万円）



● 純資産（単位：百万円）



● 1株当たり当期純利益または純損失（△）（単位：円）



※平成30年7月1日を効力発生日として、5株を1株とする株式併合を実施したため、第47期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しています。

財務諸表 *Financial Statements*

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科　目	第50期 平成30年12月31日現在	第49期 平成29年12月31日現在
資産の部		
流動資産	8,851	9,086
現金及び預金	1,022	1,128
受取手形	7	8
電子記録債権	335	285
売掛金	2,513	3,079
商品	494	471
製品	4,000	3,598
原材料及び仕掛品	203	215
前払費用	242	233
その他の流動資産	31	66
固定資産	6,754	7,671
有形固定資産	2,840	3,033
建物	670	720
土地	1,966	1,966
その他の有形固定資産	203	345
無形固定資産	99	145
投資その他の資産	3,815	4,492
投資有価証券	1,875	2,596
敷金及び保証金	379	365
賃貸不動産	1,497	1,507
その他の投資	62	23
資産合計	15,605	16,757

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科　目	第50期 平成30年12月31日現在	第49期 平成29年12月31日現在
負債の部		
流動負債	4,281	4,334
支払手形	76	82
電子記録債務	2,090	2,114
買掛金	767	748
未払金及び未払費用	566	600
未払法人税等	84	76
返品調整引当金	488	527
その他の流動負債	208	184
固定負債	1,179	1,518
退職給付引当金	665	708
その他の固定負債	514	810
負債合計	5,460	5,853
純資産の部		
株主資本	9,723	10,011
資本金	4,049	4,049
資本剰余金	3,732	3,732
利益剰余金	2,632	2,576
自己株式	△ 691	△ 346
評価・換算差額等	422	892
その他有価証券評価差額金	422	892
純資産合計	10,145	10,903
負債・純資産合計	15,605	16,757

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科　目	第50期 (平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)	第49期 (平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)
売上高	16,135	16,717
売上原価	8,365	8,984
売上総利益	7,770	7,733
販売費及び一般管理費	7,625	7,559
営業利益	144	173
営業外収益	173	177
営業外費用	61	50
経常利益	256	299
特別利益	84	79
特別損失	130	414
税引前当期純利益または損失(△)	211	△ 34
法人税、住民税及び事業税	47	36
法人税等調整額	△ 1	△ 0
当期純利益または損失(△)	165	△ 70

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科　目	第50期 (平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)	第49期 (平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	423	380
投資活動によるキャッシュ・フロー	29	106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 558	△ 209
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 105	276
現金及び現金同等物の期首残高	1,128	851
現金及び現金同等物の期末残高	1,022	1,128

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当事業年度 (平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)	株主資本										評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 別途積立金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	4,049	3,732	—	3,732	430	2,263	△ 117	2,576	△ 346	10,011	892	10,903
当期変動額												
剰余金の配当							△ 108	△ 108		△ 108		△ 108
当期純利益							165	165		165		165
自己株式の取得									△ 345	△ 345		△ 345
自己株式の処分			△ 0	△ 0					1	1		1
自己株式処分差損の振替			0	0			△ 0	△ 0		—		—
別途積立金の取崩						△ 1,000	1,000	—		—		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											△ 470	△ 470
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△ 1,000	1,056	56	△ 344	△ 287	△ 470	△ 758
当期末残高	4,049	3,732	—	3,732	430	1,263	939	2,632	△ 691	9,723	422	10,145

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

ランバン ノワール

ブラックフォーマルウェア

日常生活に見られる嗜好の多様化は、
フォーマルウェアにも顕著な傾向が現れております。
礼節を求められるブラックフォーマルウェアにおいても、
よりファッション性の高い商品開発を進めております。
さらに、日本女性が受け継いでいる伝統文化や
感性を尊重しつつ、最高のマナーに則し、
国際的にも一流である洋服作りに取り組んでおります。

アクアスキュータム

コイノブヒデ フォーメル

エモーショナル ドレッシーズ

ソワール ドルチェ

カラーフォーマルウェア

「フォーマルの場」は、人々にとってコミュニケーションの
機会であり、生活様式の変遷を反映する場でもあります。
昨今では、慶事の捉え方も、格式を重んじる華やかな式典から、
パーソナルなお祝いまで、様々な形式が選ばれるように
なってまいりました。このような時代のニーズに応えながら、
日本女性を美しく見せるカラーフォーマルウェアを
開発しております。

マリココウガ フィルドレ

アクセサリー

悲しみの装い、晴れやかなお祝いの装い。
アクセサリーは、フォーマルシーンに
欠かせないアイテムです。

PETITSOIR

時には装いのアクセントとして、また
時にはお立場を表現するアイテムとして、
多様なコーディネートでスタイリングを
完成させます。

CSR活動 *CSR Activities*

人生の大切な節目を彩るフォーマルウェア。
商材の特性を活かしながら、社会貢献・啓発活動に取り組んでいます。

社会貢献活動

●イベント活動

「お洒落」には心を弾ませる力があります。福祉施設を訪問し、フォーマルウェアを取り入れたショーイベント活動を行っています。

●ピンクリボン活動

乳ガンの啓発活動を行うNPO法人J.POSHにオフィシャルサポーターとして登録し支援しています。

●ボランティア活動

被災地や特別支援学校で支援活動を実施。
高齢者へ季節の便りを送る活動も継続しています。

●支援活動

福祉事業団の出張販売の受け入れを通じ、団体支援を継続して行っています。

●マナー講座開設

社会の一員として身につけておきたいフォーマルウェアの基礎知識。学校や各種団体にて、ご要望に応じたマナー講座を開催しております。

●教育CSR

行政・NPO団体と協業してシニア世代や子ども世代にファッションの楽しさを伝える活動を実施しています。

●地域貢献

デザイナー体験講座やワークショップを実施、中学生の職業体験の受け入れなどで地域社会の活性化にも取り組んでいます。

環境への取り組み

洋服づくりの際に出る余り布を利用してノベルティを制作しています。

フォーマル文化を広める「ソワレちゃん」

フォーマルウェアの魅力を発信する東京ソワールの「ソワレちゃん」です。
日本の冠婚葬祭、フォーマル文化を広める「フォーマルフェアリー」として日々活躍しています。

トピックス *Topics*

ミス・ワールドのオフィシャルサポーターとしてスタイリングをサポート

世界で最も歴史の長いミスコンテスト「ミス・ワールド」。
東京ソワールは、日本大会におけるファイナリスト全員へのドレスの貸与・提供ならびに世界大会における日本代表へのスタイリングサポートを継続して行っております。
本年度の世界大会は2018年11月10日から12月8日までの約1ヵ月間、中国で開催。
日本代表の伊達佳内子さんは参加国118国中、栄えあるTOP30に入賞されました。

Formal wear Q&A

生活に役立つ“フォーマルウェア”のマナーと着こなしについてご紹介します。

洋服には長い歴史があり、正しい「ルール」とされているしきたりやマナーが数多くあります。中でも、フォーマルウェアは相手を思いやる気持ちが根本にあり、心を表す最善の洋服とされています。ぜひ、より豊かなフォーマルライフのためにお役立てください。

Q 喪服に必要なアクセサリーを教えてください

A

❶ネックレス・イヤリング
ブラックフォーマルの装いはアクセサリーをつけて完成します。白パール、グレーパール、オニキス、ジェットなどをコーディネートしましょう。特に格の違いはありません。お顔映りの良いものをお選びください。

❷バッグと靴
色は黒で統一します。光のない控えめな布製や革製の小ぶりなものが良いでしょう。オートクチュール仕立てのドレスでは、一反の同じ布からバッグや靴を作ります。そのためフォーマルドレスでは布製の小ぶりのバッグがより美しい装いを引き立ててくれます。ホースヘアやシャークスキンなど革製のものは、フォーマルシーンに適して作られた、光沢を抑えた黒色のものを選んでください。

会社概要／役員／沿革／株式の状況 *Corporate Information*

会社概要(平成30年12月31日現在)

商号	株式会社東京ソワール
本社所在地	東京都港区南青山一丁目1番1号
設立	昭和44年1月23日
資本金	4,049,077,623円
主な事業内容	婦人用フォーマルウェアの製造・販売並びにアクセサリー類の販売
従業員	264名、その他販売員及び臨時従業員1,656名
主な事業所	本社　〒107-8604 東京都港区南青山一丁目1番1号
	関西支店　〒542-0081 大阪市中央区南船場二丁目5番12号
	中部営業所　〒461-0008 名古屋市東区武平町五丁目1番
	川崎商品センター　〒210-0821 川崎市川崎区殿町一丁目19番12号

(注)平成31年1月25日付で、九州営業所(福岡市博多区)を閉鎖いたしました。

役員(平成31年3月28日現在)

代表取締役社長	村越眞二
取締役　常務執行役員	宮本幸三
取締役　常務執行役員	青山秀夫
取締役　常務執行役員	小泉純一
取締役　執行役員	坂本勝郎
取締役　執行役員	吉村暢晃
取締役　執行役員	牛田広光
取締役　(社外取締役)	小山伸二
取締役　(社外取締役)	野村浩子
常勤監査役	磯貝章弘
監査役　(社外監査役)	井原秀和
監査役　(社外監査役)	石川啓一
執行役員	大島和俊
執行役員	宮本英治
執行役員	齊藤兼文

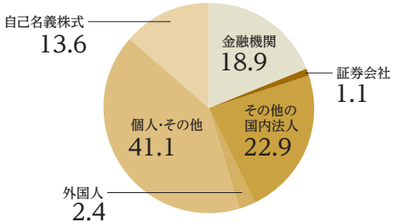
株式の状況(平成30年12月31日現在)

- 発行可能株式総数 …… 14,000,000株
- 発行済株式の総数 …… 3,860,000株
  (自己株式525,204株を含む)
- 株主数 …… 2,096名
- 大株主

株主名	持株数	持株比率
田村駒株式会社	180 千株	5.41 %
東京ソワール取引先持株会	178	5.35
株式会社三菱UFJ銀行	174	5.22
株式会社みなと銀行	171	5.14
草野圭司	164	4.92
株式会社みずほ銀行	164	4.92
帝人フロンティア株式会社	161	4.83
明治安田生命保険相互会社	88	2.65
株式会社大丸松坂屋百貨店	83	2.49
住友生命保険相互会社	70	2.12

(注)1. 当社は、自己株式を525,204株保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が、基準日現在に保有する当社の株式56,600株を自己株式に含めて計算しております。
3. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

- 株式の分布状況(%)



金融機関	730,241 株
証券会社	41,601 株
その他の国内法人	885,344 株
外国人	90,699 株
個人・その他	1,586,911 株
自己名義株式	525,204 株

沿革

1954年(昭29年)	児島絹子が東京都世田谷区に「ソワール洋装店」オープン
1969年(昭44年)	「株式会社東京ソワール」を資本金200万円にて設立
1971年(昭46年)	「黒のフォーマル」に製品を特化し、その後の成長基礎を築く
1973年(昭48年)	関西方面取引拡大のため関西出張所を開設
1974年(昭49年)	本社を東京都渋谷区桜丘町に移転。取引店舗全国69店舗となる
1975年(昭50年)	世田谷商品センターを開設 浅丘ルリ子と契約、テレビCMを中心に宣伝を開始しフォーマル市場の拡大を行う 関西出張所を営業所とする
1976年(昭51年)	福岡市に九州営業所を開設、取引店舗100店舗となる
1977年(昭52年)	名古屋市に中部営業所を開設
1978年(昭53年)	札幌営業所を開設 本社を現在の東京都港区南青山に移転
1981年(昭56年)	神奈川県川崎市に川崎商品センターを開設
1982年(昭57年)	関西営業所を支店とする
1984年(昭59年)	川崎商品センター増改築工事完成、物流機能の集約化 東京都渋谷区に表参道店開設
1986年(昭61年)	店頭登録による株式公開及び、公募増資の実施
1988年(昭63年)	東京証券取引所市場第二部に上場
1991年(平 3年)	川崎商品センター増築工事完了による物流体制の拡充
1992年(平 4年)	表参道店新築完成
2003年(平15年)	中部営業所を千種区から中区へ移転
2006年(平18年)	株式会社ワールドと提携 新ブランド「ランバン ノワール」発表 関西支店を立売堀より南船場へ移転
2007年(平19年)	自己株式の消却を実施 (消却前の発行済株式総数に対する割合は10.32%)
2008年(平20年)	新ブランド「ウンガロ・ソワ」発表
2010年(平22年)	イオンレイクタウンに「フォルムフォルマ」1号店オープン
2013年(平25年)	株式会社ワールドとのライセンス契約ブランド「INDIVI」発表
2015年(平27年)	株式会社ワールドとのライセンス契約ブランド「リフレクト」発表 中部営業所を中区から東区へ移転 札幌営業所を閉鎖
2017年(平29年)	意思決定の迅速化と収益管理の強化を目指し、 機能別組織体制から製販一体の組織体制へ移行
2018年(平30年)	株式会社レナウンとのライセンス契約ブランド 「アクアスキュータム」発表
2019年(平31年)	九州営業所を閉鎖